

中村の地内が一時荒地となつたのを、町醫師堀昌安が申請け、自費を以て往來の左右に數十軒の賃屋を建築し、細民をこゝに居住せしめて産業に就かしめ、圍内を昌安町と私稱し、夏季には夜店を開いて一時甚だ繁昌したが、大風の爲家屋悉く破壊し、且つ昌安の死去に逢うて遂に廢絶した。

ジヨウイ 貞意 白山宮の僧で、建武二年六月三日附赤糸の甲紛失についての起請文が白山比咩神社に遺されてゐる。この紙の裏に丹生都比咩の神像が描かれてゐるのは、阿彌陀の誓紙と性質を同じくするものであらう。

シヨウイチイナリダイミヨウジン 正一位稻荷大明神 藩政の時正月初に來た藤内の物貰ひで、赤白の狐を土で作り、之を板に載せて捧げるものであつた。

シヨウイン 昌胤 ↓キョウジュン 教順。

シヨウイン 正院 珠洲郡正院郷に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録に『珠々正院卅七町、承久元年檢注田定』といふもの是に當る。王朝に郡家のあつた所もこゝであらう。天正四年以降越後の長興市景連が居たこともある。能登名跡志に、『正院。家數百二十軒許。町作りたるよき村なり。此村は昔の要害の城下にて、商家等あり。其上松前へ越え出店して、よき身上のもの數多あり』とある。

シヨウインゴウ 正院郷 珠洲郡に在つた。應安五年六月廿三日の文書に、『正院郷内伏見小泊・毛壽・饗浦』など、見える。

シヨウインゴウ 正院郷 珠洲郡に屬し、藩政時代では、熊谷・正院・小路・岩坂・岡田・飯塚・川尻・嶋島・雲津・小泊・小泊新・伏見竹

澤・細屋・本・杉山・山中・唐笠・折戸・川浦の二十ヶ村を含んで居た。

ジヨウインジ 淨因寺 羽咋郡草木に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウインジヨウ 正院城 珠洲郡正院にあつたといふが、今明らかでない。越登賀三州志故墟考に、『舊記に飯田城といふ是と一ならん。此地正院郷なれども、飯田郷の飯田の上に在り。故に中古飯田城とも呼ぶなるべし。飯田町砂濱居家の後背を離れ、西方山上に幅員百四五十間許の地あり。是を城迹といへども、城様不分明と也。』と記する。

シヨウインハチマンジンジャ 正院八幡神社 珠洲郡正院に鎮座する。式内等舊社記に、『正院八幡神社。正院郷正院村鎮座。舊社也。』とあり、能登名跡志に、『氏神八幡宮は、昔は猿樂などあり賑はしく、今も舞臺などあり。什寶に作の面あまたあり。昔は今の櫻井氏の外に社人多く、神子塚などゝあり。』と見えるもので、今は長濱八幡神社と稱する。

シヨウインヤキ 正院燒 一名彌藏燒。珠洲郡正院に於いて天保初年の頃彌藏といふものが製した陶器で、九谷の傳統を受けるものと信ぜられる。一時金澤にも販出したが、嘉永中に至つて廢棄した。東京帝室博物館にその張良圖の中皿が所藏せられてゐる。

シヨウインヤマ 正院山 珠洲郡正院の北方海岸を距ること一軒の中瀬山にあつて、里人之を御山・在住・役屋敷ともいふ。幕末外國船の出没を見るに至り、邊海防備の爲加賀藩より派遣した士人の在住した所である。その在住は安政五年に初つた。

シヨウウブンシユウ 松嶋文集 加藤恒著。

著者歿後七周忌に當る明治三十八年に、遺稿十五編を鈔録出版し、敦亨世良太一の序と柳下永山近影の跋とを添へたものである。

ジヨウウン 乘運 日蓮宗の僧。日像の門下で、天授三年(永和三)師の遺跡を探つて、河北郡藥師村に本興寺を創建し、元中三年(至徳三)四月廿七日に寂した。

シヨウウンイン 祥雲院 加賀藩祖前田利家の女摩阿姫の法號。詳しくは祥雲院絳室宗盛大禪定尼。

シヨウウンイン 松雲院 前田利政の室蒲生氏の法號。

シヨウウンイン 松雲院 加賀藩主第五代前田綱紀の法號。詳しくは松雲院德翁一齋居士。

シヨウウンコウオヤワ 松雲公御夜話 別名參議公御夜話・綱利公御夜話・中典秘録。この書は中村典膳克正が、前田綱紀に侍して聞き得た談話を記したもので、寶永三年十月十六日から享保八年十二月十八日まで二百二十五條に及んで居り、著者は之を書いて享保十年に前田吉徳に上つた。又同追加は、前に盡くし得なかつた條々百三十一條を更に輯めて、延享三年に前田宗辰に上つたものである。

シヨウウンコウサイシユウイヘンルイサン 松雲公採集遺編類纂 前田綱紀は、古人の著書若しくは筆録中未だ一部の成書とならざるものを蒐めて秘笈叢書と稱したが、明治初年多く散逸した。後その遺されたものを森田平次が、朝廷・神社・寺院・地理・記録・書籍・古文書・碑文・系譜・軍事・教訓・衛生・樂譜・詞花・詩歌・連歌・雜の各部に類別して百八十九冊の書

を成したものの即ち是である。

シヨウウンコウザユウノメイセンカイ 松雲公座右銘淺解 一冊。嘉永三年陸原之淳著。前田綱紀の座右銘「興・耀・德也。使・民・忘・德。於乎鼓腹。奚知・帝力。有・爲者窮。我從・天則。思・之・不・置。于・夜・子・夙。」を釋したものである。

シヨウウンコウネンブ 松雲公年譜 五冊。前田綱紀の誕生から薨去葬送の事まで記されてゐるが、三壺記・菅家見聞集等によりて集成したものゝ如くである。

シヨウウンジ 松雲寺 石川郡美川に在つて、眞宗西派に屬する。もと越中彌波郡福野に在つたが、明治十九年十二月今の地に移つた。

シヨウウンジ 正雲寺 能美郡小松の鍛冶町に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウウンセンエイ 祥雲千英 金澤曹洞宗寶圓寺廿一代の住持。生國は近江。安永九年四月金澤松山寺から進山し、天明八年十月隱居、文政元年三月廿一日遷化した。

シヨウウンボウ 昌運坊 羽咋郡瀧谷に在つて、日蓮宗妙成寺の塔頭であつた。元和三年同寺十三代日鳳の退栖した所であるが、安政中災に罹つて廢した。

シヨウウエイジ 松榮寺 江沼郡下栗津に在つて、眞宗東派に屬する。もと金澤に在つたが、明治廿四年一月今の所に移した。

シヨウウエイジ 松榮寺 石川郡金石に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウウエイジ 正永寺 石川郡宮保に在つて、眞宗東派に屬する。

シヨウウエイジ 正永寺 鹿島郡鹽津に在つて、眞宗東派に屬する。